

アジアから日本の高等教育を見る

アジア大学サミット 参加レポート

2018年2月、日本大学ランキングに先立って、中国・深圳市でアジア大学サミットが開催された。このサミットでは、アジア大学ランキングが発表されたほか、アジア各国の国際的な教育・研究に関する相互交流を目的としたネットワーク構築が盛んに行われた。

拡大するアジア市場に 欧米の大学が注目

今回、アジア大学サミットの会場となったのは、中国・深圳市郊外にある南方科技大学。THEが中国本土で初めて開催するイベントということもあり、キャンパスだけでなく、街全体がイベントの熱気に包まれていた。随所にドローンやロボットが登場したのも、中国のシリコンバレー・深圳ならではだ。

注目度の高い日本 国際競争力の高い中国

サミットの開催期間は3日間。アジアの地域特性をふまえて「産業界からの収入」のスコア比率が高いアジア大学ランキング発表のほか、講演会や現地視察、レセプションなどさまざまなイベントが行われた。

参加者の多くは、地元・中国をはじめアジアの大学関係者や政府機関関係者だが、彼らに混じって、2日目に行われた中国の国家自然科学基金委員会のWei Yang氏の講演では、「影響力の高い学術論文の生産性において、中国のC9が日本のRU11を上回った」という説明がなされた。3日目のTHEによるランキング結果分析でも、東京大学「8位」とアジア各国のトップ大学の詳細なスコア比較が解説されるなど、さまざまな面で日本がアジア各国、特に中

国のベンチマークとなっている。現に今回のアジア版でトップ350+にランクインした日本の大学は89大学と全体の4分の1を占め、国別では最多である。しかし、トップ20に入った大学は2大学のみ。一方で、中国は全体の5分の1にあたる63大学がランクインし、トップ20に7大学が入っており、トップ大学では中国が優位に立っている。THEデータ・解析ディレクターのダンカン・ロス氏は、「2019年には世界版に中国は新たに10校ランクインするだろう。その中には7年前に設立されたばかりのこの南方科技大学も入っているかもしれない」と予測していた。

ネットワークづくりや 関係継続にサミットを活用

サミットでは、ネットワークづくりが盛んに行われていた。ディナータイムで同じテーブルだったインドネシアの大学職員とタイの大学教員は、さっそく「学生を送り合おう」というところまで話を進めていた。また、日本のある大学は、「休眠状態になっている海外協定校の関係者を探して、関係継続のために積極的に声をかけている」と話していた。サミットはネットワークを広げるだけでなく、既存のネットワークの活性化にも活用できそうだ。

今回、日本から参加した大学は14校。ランキングの割には参加



*1 中国のトップ9大学の総称。構成大学は、北京大、清華大、上海交通大、復旦大、浙江大、南京大、中国科学技術大、ハルビン工業大、西安交通大。
*2 日本の11の研究大学からなるコンソーシアム。構成大学は、北海道大、東北大、東京大、早稲田大、慶應義塾大、名古屋大、京大、大阪大、九州大、筑波大、東京工業大。

THE Asia Universities Summit 2018 in Shenzhen

アジア大学サミット2018概要

【開催日時】2018年2月5日～7日
【開催地】南方科技大学(中国・深圳)
【参加費用】約10万円(早期申し込みで割引あり)
【参加者】世界の高等教育機関の教職員、政府関係者、企業関係者
(日本の参加大学:北海道大、東北大、政策研究大学院大、東京大、東京工業大、静岡大、長岡技術科学大、岡山大、九州大、東洋大、東海大、中央大、関西学院大、近畿大)

テーマ	
Connecting cities, changing the world : research universities building Asia	
プログラム	
1日目	午前 THEスタッフによる分科会 午後 ランチ/市内ツアー/ウェルカムレセプション/ウェルカムディナー
2日目	午前 開会式/基調講演 午後 ランチ/分科会/人脈構築のための休憩時間/パネルディスカッション/ディナー/ランキング発表
3日目	午前 THEによるランキング結果解説/人脈構築のための休憩時間/パネルディスカッション/基調講演 午後 ランチ/パネルディスカッション/基調講演/閉会式



1会場となった南方科技大学。2012年開校の新しい公立大学で、学生数は約4400人。2初日のウェルカムディナーの会場。席は決まっておらず、各自が自由にコミュニケーションを取れる。3南洋理工大学の学長は講演の中で「科学技術への投資こそ都市の急速な発展をもたらす」と述べた。4中国の国家自然科学基金委員会のWei Yang氏の講演資料。影響力の高い学術論文の生産性を、中国のC9、日本のRU11、米国のアイビーリーグ等で比較している。5、6アジア大学ランキング発表の様子。

大学数が多くないように思う。海外においてもランキングの是非は終わりのない議論であるものの、少なくともランキング結果を活用して自学のプレゼンス向上に役立てようと考えている参加者は、サミット全体を通じて多かった。例えば韓国のKAIST「10位」の広報担当者は、THEの情報誌を含めたさまざまなコミュニケーションチャネルを通じて、海外での認知度を高める努力をしていると話していた。また、マレーシアのペトロナス工科大学「114位」の改革担当者も、THEを含む外部からの評価を広報に使うだけでなく(名刺に評価された機関のロゴ記載あり)、スコアなどを改革の達成目標やKPIとして設定してい



(株)進研アド グローバル支援部 益子裕也
ましごゆうや ●大学の活性化、グローバル化に向け、多角的に分析・提言を行っている。

ると語っていた。アジア版の後に発表された日本版ランキングでは、国際性のスコアの比率が高まった。モビリティを高めることは国際競争力を高めることにつながる。日本の大学に対するアジア各国の注目度は依然として高く、各大学はそのメリットを生かせる立場にある。世界各国で行われるTHEのサミットへの参加は貴重な機会になることだろう。今回の参加を機に改めてそう感じた。

アジア大学ランキング2018TOP20			
2018順位	2017順位	教育機関	国/地域
1	1	シンガポール国立大学	シンガポール
2	3	清華大学	中国
3	2	北京大学	中国
4	5	香港大学	香港
=5	6	香港科技大学	香港
=5	4	南洋理工大學	シンガポール
7	11	香港中文大學	香港
8	7	東京大学	日本
9	9	ソウル大学	韓国
10	8	韓国科学技術院(KAIST)	韓国
11	14	京都大学	日本
12	10	浦項工科大学	韓国
13	13	成均館大学	韓国
14	12	香港城市大学	香港
15	15	中国科学技術大学	中国
16	16	復旦大学	中国
17	25	南京大学	中国
18	19	浙江大學	中国
19	17	香港理工大學	香港
=20	18	上海交通大學	中国
=20	29	延世大学	韓国

*3 今年度中に開かれるサミットは、6月にYoung Universities Summit(米国)、7月にTeaching Excellence Summit(英国)、9月にWorld Academic Summit(シンガポール)などがある。いずれもTHEの公式サイトより直接申し込みができる。